

## 1. はじめに

ローズハルマン工科大学 (Rose-Hulman Institute of Technology:以下 RHIT) での生活がスタートし、早 1 か月が過ぎた。英語を勉強するため 6 月から 8 月に滞在していたロチェスター工科大学とは、生活面や学業面での環境がかなり異なり、最初は慣れることに大変苦労した。しかし今では、RHIT での生活にも徐々に慣れ、忙しくも充実した日々を過ごしている。

## 2. RHIT での生活

ローズハルマン工科大学は、インディアナ州テレホートに 1874 年に設立された大学である。現在では、約 2000 人の学部生、大学院生が約 13 の学部に分かれ勉学に励んでいる。学内には、講義実験棟や食堂、図書館、体育館といった基本的な施設から、寮、チャペル、ラジオ局、学生自治寮(Fatality もしくは Sorority と呼ばれている)といった工大にはない施設も設置されている。また、チャペルの側には湖もあり、緑と自然に囲まれた場所である。



図 1. 食堂から撮影した湖とチャペル

### 2.1. 学生寮

学内には、10 つの学生寮があり、私は Apartment-West という寮に住んで居る。寮では 4 人の学生と、リビングルーム、キッチン、バスルームを共同で使っている。また寝室は 2 つに分かれている。ルームメイトは、数学専攻の 4 年生で、また交換留学生のサポートを行っているメンバーの一人でもあるので、RHIT での生活をサポートしてくれるので、とても心強い。またスイートメートの 2 人は、共に生物医工学専攻であり、時々わからない問題などを聞いている。また 2 人とも副専攻として、日本語を学んでいるので時々日本文化について話すことができよう機会となっている。



図2. Apartment-West のキッチン

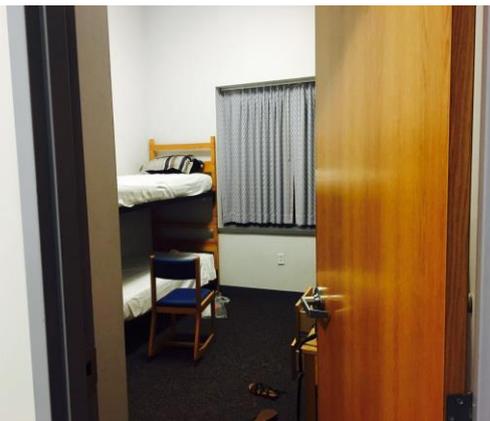


図3. 各自の部屋

## 2.2. 授業

RHIT での授業は1限 50 分で、1 日に 10 限まで行われている。授業間の休みは約 5 分なので、その間に移動や準備をしなければいけないのが大変である。また昼休みがないため、各々の空いた時間に昼食をとっている。秋学期は、3科目 12 単位の授業を履修している。以下に履修している科目の詳細を示す。

### ① BIO110: Cell structure and Function

この授業では、週3回の講義と1回の実験、小テストがある。内容は2年時に履修していた「細胞の構造と機能」、「細胞生物学」などで既に学んでいるため、授業にはついていける。実験は、基本的な実験操作や器具の使用を交えながら、酵素や DNA についての実験を行っている。またこの授業では、3回のテストと期末テストが成績の 60%を占めるので、予習や復習に多くの時間を割いている。しかしながら、専門用語を英語で覚えることや、機能や仕組みについて英語で説明する際につまずいてしまうので、同級生に聞いたり、チューター制度を利用しながら、改善していきたい。



図4. 実験 (Lab クラス) の様子



図5. SDS-PAGE を用いた実験

**② ESL101: Reading and Writing**

この授業は、英語を第二言語とする生徒のための授業であり、主に英語における基本的な文章構成を理解の重点を置いている。Reading では、文章や段落の意図を理解する問題などをペアワークを通し行っている。また Writing では、毎週 Journal を提出し、自分の意見や考えを時間内にまとめる練習などを行っている。

**③ ESL111: Listening and Speaking**

この授業も同じく、英語を第二言語とする生徒のための授業である。この授業では、TED talk を中心とした聞き取りと、アメリカ人への Interview や Survey を中心とした課題が多い。またクラスの雰囲気としては、全体的にスピーキングのレベルが高いこと、積極的にクラス内で発言している。しかしながら私は、未だに自分から話すことをためらってしまうこともあるので、もっと積極的に授業に参加していきたいと思う。

**④ Japanese Language and Culture**

この授業は、日本語を学ぶための学生のクラスである。正式に履修しているわけではなく、ネイティブスピーカーとして、週 1 のペースで学生の課題や発音練習やペアワークなどの手伝いをしている。学生から、日本語の文法や会話における使い方について聞かれることがあるが、答えに詰まることが多々ある。日本語の複雑さを実感するとともに、母国語にもかかわらず説明できないことに対して情けないと感じてしまった。また、この授業や学生を通して日本の文化とアメリカなどの外国の文化との考え方の違いについても知ることができるので自分にとっても良い機会となっている。

### 3. 施設

RHIT の周辺には、娯楽施設やスーパーといった場所がない分、学内には様々な施設がある。その中で特徴的な 4 つの施設を紹介する。

#### 3.1. 食堂

RHIT には、バイキングをメインとした食堂と、ファストフードを主とした 2 つの食堂がある。両方ともご飯時には、多くの学生が集まり賑わっている。また日本と違う点では、知らない人同士でも、Hello と同じテーブルで食事をしたりもする。最近では、食事の時間に様々な人と話すことが 1 つの楽しみとなっている。



図 6. バイキング式の食堂の様子

#### 3.2. Union

食堂と同じ階にある Union には、テレビやビリヤード台、誰でも自由に弾けるピアノが設置されており、学生が勉強の合間に息抜きをする姿がよく見受けられる。



図 7. Union の様子

### 3.3. SRC (Sport and Recreation Center)

SRC には、日本のような体育館から、プール、ジム、ラケットボール、ボルダリングなどの設備があり、多種多様なスポーツを行うことができる。

### 3.4. Learning Center (LC)

LC は、チューターとして勤めている上級生から、課題に対してのヒントや勉強などを直接教えてもらう場所である。以前同じ授業を履修した学生から、テストの傾向やアドバイスがもらえるのでとても役立つ。また ESL を履修している生徒は、ESL を専門とするチューターに宿題を見てもらい Peer Tutoring、もしくは学生 4 人とチューターで会話をする Conversation Group に週 1 回以上の参加が求められる。普段の授業では、学べない日常会話のコツやアドバイスを得ることができる。



図 8. LC でのチュータリングの様子

## 4. 学内行事

RHIT では、毎週と言ってよいほど様々なイベントが行われている、その中で参加して印象に残ったものを紹介する。

### 4.1. 入学式とオリエンテーション

RHIT では、1 年時に学内の寮に入ることが必須である。そのため、多くの生徒が親とともに寮に移動し、入学式では別れを惜しむ姿が見られた。また、寮の仲間との結束を高めるため、最初の一週間は野外オリエンテーションやショーなど様々なイベントが行われた。



図9. 入学式



図10. 野外オリエンテーションの様子

#### 4.2. Study Abroad Fair

これは、RHIT が協定を結んでいる大学への留学プログラムを紹介するイベントである。同じく交換留学生としてきたドイツ、スペイン、中国の学生と各々の大学について RHIT の学生に紹介した。金沢工業大学や同じく提携校である会津大学の学生とともに、日本のブースに立ち、プログラムの紹介を行った。多くの学生が日本のブースに立ち寄り、KIT の短期留学に興味を持ってくれたので、多くの学生が来ることに期待をしている。

#### 5. 自由時間

平日の自由時間の多くを、課題や授業の予習復習や、テスト対策に費やしている。一方で、週末には、友達やルームメイトとともにカードゲームを行ったり、ドイツや中国からの留学生とともに友達を作るためパーティーに参加したりしている。

#### 6. クラブ活動

9 月上旬に、学校全体のクラブ活動や部活動の説明会が実施された。現時点では、スウィングダンスクラブ、ロッククライミングクラブ（ボルダリング）、ISA (International Student Association) に参加している。しかしながら、先ほども述べたようにほとんどの自由時間を課題等に費やしているため、数回程度しか参加していない。しかしながら、クラブ活動を通して友達を作ることができたので、今後も継続して参加していきたい。

#### 7. 課題研究 「アメリカにおける日本の発酵食品に対する認識への調査」

近年では、発酵食品が人体に良い影響を与える微生物を含むプロバイオティクス食品であることから、若者間で需要が高まっている。また、海外でも日本特有の発酵食品の需要が高まりつつある。事実、アメリカにおける日本食レストランの件数だけでなく、日本特有の発酵・醸造品である日本酒も、10 年前に比べ人気となってきている。2007 年では、年間 11,333 kl の輸出量に対し、2015 年度では年間 18,180 kl と増加している。しかし、海外において、日本の発酵食品が人気の理由や、どの食品に対して人気があるのか、海外の人たちはどんな認識を持って発酵食を食べているのかといった、消費者の需要に対するデータや意見が乏しい。そこで本研究では、海外における日本における発酵食品への認識や観点を調べることを目的とした。具体的には、アメリカにおいて、日本及び外国の発酵食に関するアンケート調査や、醸造所の見

学等フィールドワークを通して、日本の発酵食に対する認識を調査し、日本の発酵食に対する認識を調査する。

#### 8. 最後に

最初の2週間は、環境の変化に戸惑い、ときに体調を崩すこともあった。しかしここでは、自分の考えや手伝ってほしいことをしっかりと発信すれば、RHITの学生や職員の方が、必ず何かしらの形で応えてくれる。様々な人の協力と人との縁で、今ではRHITの生活に徐々に慣れ始め、充実した学生生活を送っている。まだ多くの越えなければいけない壁はあるが、1つ1つ克服し、より良い留学生活にしていきたい。

以上で、9月の派遣留学報告書とする。